

いよいよ開幕！



Toulouse-Lautrec
と
ロートレック

2026 4.2 [木] 5.31 [日]

ハルムンダ

and Mucha

Ten years in Paris
パリ時代の10年

【開館時間】 9:00-17:00 (金曜日は20:00まで開館)
※入場は閉館30分前まで ※4月2日は10:00開場
※開館情報等に変更の生じる場合がございます。
最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

【主催】 広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社
【後援】 中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送
【特別協力】 大坂中之島美術館
【企画協力】 朝日新聞社 【協力】 尾形企画

 広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒730-0014 広島市中区上機町2-22 Tel. 082-221-6246
Fax. 082-223-1444 <https://www.hpam.jp/museum>

アンリ・ド・トゥールーズ＝ローレック (アン・バサドゥール、アリスティッド・ブジョアン) (部分) 1892年 / アルフォンス・ミュシャ (黄道十二宮) (部分) 1896年 いづれもサントリーポスターコレクション、大坂中之島美術館寄託



【開催主旨】

南フランス生まれのアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901年）と、チェコ生まれのアルフォンス・ミュシャ（1860-1939年）。いずれも芸術の都として花開いた19世紀末のパリにおいて、リトグラフ制作に携わり、その洗練されたポスターデザインで評価された芸術家です。本展覧会では、2人の画業が交わりあう1891年から1900年の「パリ時代の10年」に注目します。大阪中之島美術館寄託のサントリーポスターコレクションを中心に、彼らが制作した石版画ポスターなど「よき時代（ベル・エポック）」を感じられる作品をご覧ください。とりわけロートレックが制作したすべてのポスター31点を一挙にご紹介する貴重な機会です。

本展の見どころ

1 ロートレックの全ポスター31点を一堂に紹介

《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》の発表から10年の間にロートレックにより生み出されたポスター全31点を一堂にご紹介します。

2 ロートレックとミュシャ、二人の活動を比較しながら紹介

ロートレックがポスター作家としてデビューした1891年から1900年まで、同時期にロートレックとミュシャが発表した作品を比較しながら紹介します。

第1章 1891年から1894年 《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》 発表から《ジスモンダ》誕生まで

ロートレックは1891年10月、カフェ・コンセル（※）のためのポスター《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》を発表、高い評価を得て、これを機に石版画（リトグラフ）に打ち込んでいくことになります。同時期、挿絵画家として活動していたミュシャは、1894年のクリスマス・シーズンに依頼を受け、劇場ポスター《ジスモンダ》を制作、大評判となりました。奇遇にも、二人とも第1号ポスターによって時代の寵児となったのです。

※カフェ・コンセル：19世紀末パリの歓楽街を特徴づけるダンスホール兼コンサートホールで、お酒や食事、観客同士の会話も楽しめる娯楽施設であり催事場のこと。



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ
(第2ステート)》1891年



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《ディヴァン・ジャポネ》
1892-93年



アルフォンス・ミュシャ
《ジスモンダ》1894年

第2章 1895年から1897年 《サロン・デ・サン》での競作

1895年から1897年までの間に、二人の出会いの最大の鍵となる文芸雑誌『ラ・プリュム』が主催する美術ギャラリー「サロン・デ・サン」での展示が開催されています。この時代、ロートレックもミュシャも、様々なオファーにより石版画を制作、また多くの展覧会に出品するばかりでなく個展も開催するなど旺盛な活動を展開していきました。



アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック
《サロン・デ・サン 54号室の女性船客
(第3ステート)》1895年



アルフォンス・ミュシャ
《サロン・デ・サン 第20回展》
1896年



アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック
《『彼女たち』(第4ステート)》
1896年



アルフォンス・ミュシャ
《サロン・デ・サン ミュシャ作品展》
1897年



アルフォンス・ミュシャ
《ムーズ川のビール》
1897年

第3章 1898年から1900年 ロートレックの最後のポスター、 ミュシャはパリ時代のピークへ

この頃から健康状態が悪化していったロートレックは、ドローイングに力を注ぐようになり、最後とされるポスター《学生たちの舞踏会》もドローイングで提案されました。一方ミュシャは、1900年開催のパリ万国博覧会でのオーストリア館、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ館で大いに活躍します。この万博への貢献によって、フランツ・ヨーゼフ1世勲爵に任じられるという名誉を受けることになりました。



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《学生たちの舞踏会（文字のないステート）》
1900年



アルフォンス・ミュシャ
《アメジスト（連作『四つの宝石』より）》
1900年

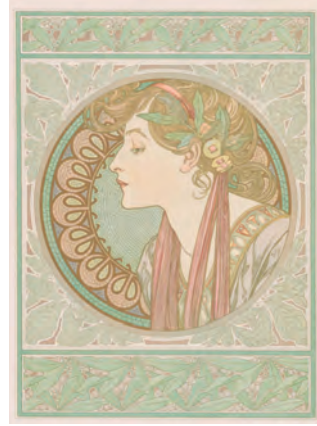
第4章 1901年以降 ロートレックの死、ミュシャ装飾様式の成熟と完成

1901年、ロートレックは36歳にして最愛の母の居住するマルロメの城で亡くなります。一方、万博を機に故郷チェコのために制作する決意を新たにされたミュシャは、パリを離れアメリカへ、そしてチェコへと移っていきました。この頃パリ時代の集大成ともいえる『装飾資料集』（1902年）を発表、その装飾様式は見事なまでの成熟と完成を見せています。

press release



アルフォンス・ミュシャ
《つた》1901年



アルフォンス・ミュシャ
《月桂樹》1901年

第5章 同時代のお酒のポスター

この時代、パリ市民の増加と歓楽街の隆盛、娯楽へのニーズの高まり、製造業の活発化などの諸要因により、お酒の製造販売が増え、そのためのポスターも数多く制作されました。ここでは、ピエール・ボナール《フランス・シャンパン》(1891年)をはじめとする同時代のお酒の石版画ポスターを紹介します。



ピエール・ボナール
《フランス・シャンパン》
1891年



ジュール・シエレ
《マリアニ・ワイン》
1894年

作品はすべてサントリーポスターコレクション (大阪中之島美術館寄託)



【関連イベント】

■ 記念講演会「ロートレックとミュシャの遭遇 —その可能性とタイミングを探る」

日時：4月18日（土）13時30分～15時 [開場13時]

講師：平井直子（大阪中之島美術館主任学芸員・本展監修者）

会場：地階講堂

共催：広島県立美術館友の会

※聴講無料 ※要事前申込（電話 082-221-6246）

■ 講演会「ベル・エポックのスーパースター ロートレックとミュシャ」

日時：5月9日（土）13時30分～15時00分 [開場13時]

講師：千足伸行（当館館長）

会場：地階講堂

※聴講無料 ※要事前申込（電話 082-221-6246）

■ 展示室からインスタライブ

日時：4月14日（火）、5月12日（火）各回17時～



■ ポッドキャスト配信

詳しくは当館（HP・SNS）にて

■ 学芸員によるギャラリートーク

日時：4月17日（金）、5月1日（金）、5月22日（金）各日11時～、17時～

会場：3階展示室

※要入館券 ※事前申込不要

■ ワークショップ「塗り絵で缶バッジをつくろう！」

本展に出品されているロートレックとミュシャの作品をフランス固有色の色鉛筆で塗って、自分だけのオリジナル缶バッジを制作しましょう。

日時：5月17日（日）13時～15時

会場：3階ロビー 材料費：無料

※先着30名 ※事前申込不要

press release



■ ロビーコンサート・広島ジャズプレゼンツ

19世紀末パリの華やかな「ベル・エポック時代」の空気感をまといながら、ジャズマナーシュやフランス音楽、モダンジャズのエッセンスを織り交せて、優雅で軽やかなサウンドをお届けします。

日時：4月25日(土) 【1st set】11時～、【2nd set】14時～

会場：【1st set】1階ロビー、【2nd set】縮景園(美術館前芝生広場)

出演：ベル・エポック・カルテット

メンバー flute：太田和孝 guitar：ニシウラトモアキ

accordion：原田忠 bass：是盛博司

※鑑賞無料 ※事前申込不要

※【2nd set】は縮景園の入園券が必要



■ 映画『ディリリとパリの時間旅行』特別上映

19世紀末のパリを舞台に、ロートレックをはじめとする当時のさまざまな著名人が謎を解く映画「ディリリとパリの時間旅行」(2018)を、本展開催に合わせて上映します。映画にはロートレックや、本展出品ポスターも登場します。

詳細はサロンシネマ HP (<https://johakyu.co.jp/>) をご覧ください。

期間：4月10日(金)～4月16日(木)

会場：サロンシネマ

(広島市中区八丁堀 16-10 広島東映プラザビル 8階)

☆4月11日(土)10時15分～

本展担当学芸員・池田彩夏による

上映前トーク決定♪



press release



■ 広島駅 minamoa 内

「miobyDoTS」 コラボアフタヌーンティー

本展にちなんだアフタヌーンティーセットを、広島駅 minamoa 西棟 3 階（広島市南区松原町 2-37）「miobyDoTS」でご提供いたします。詳細は miobyDoTS の HP（mio.dots4bw.co.jp）をご覧ください。



【展覧会メニュー】

■ 3 階ティールーム 徒夢創家（トムソーヤ）

フレンチトースト
マンダリンオレンジソースとアイス添え
（ドリンク付き）

1,100 円（税込）





【開催概要】

メインタイトル：ロートレックとミュシャ パリ時代の10年

英語名：Toulouse-Lautrec and Mucha—Ten years in Paris

会期：令和8年4月2日(木)～令和8年5月31日(日)

開館時間：9:00～17:00(金曜日は20:00まで開館)

※入場は閉館の30分前まで ※4月2日は10:00開場

※開館情報等に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

料金：一般 1,500円 高・大学生 1,000円 小・中学生 700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※会期中、本展チケットのご提示(半券可)により、100円で縮景園にご入園いただけます。

※学生券をご購入・ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

※前売券は、広島県立美術館、公式オンラインチケット、セブンチケット(セブン-コード:113-708)、ローソンチケット(Lコード:63400)、チケットぴあ(Pコード:687-382)広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞読者広報部などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社

後援：中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

特別協力：大阪中之島美術館

企画協力：朝日新聞社

協力：尾形企画

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail: iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 池田彩夏

広報担当：総務課 一色直香

公式 SNS はこちらから



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、

1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。(ボールペンなど使用不可)